



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 2004, 81(5):
828-829

ISSUE DATE:

2004-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/97740>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成16年2月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第81巻 第5号

ISSN 0525-2997

vol.81 no.5

物性研究

2004 / 2

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し、討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行いません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 「物性研究」に掲載される論文の著作権は、物性研究刊行会に帰属することとします。但し、著者が著作物を使用することをさまたげるものではありません。
4. 本誌の論文を欧文の論文で引用する時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) **76** (2001), 1. のように引用して下さい。

[原稿作成要領]

1. 原稿は、原則として日本語に限ります。
2. 投稿原稿は2部提出して下さい。但し、研究会報告は1部で結構です。
3. 別刷を希望の場合は、投稿の際に、50部以上10部単位で、注文部数・別刷送付先・請求先を明記の上、お申し込み下さい。別刷料金については、刊行会までお問い合わせ下さい。
4. ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。
 - 1) 用紙はA4を縦に使用。(印刷はB5になります。縮小率86%)
 - 2) マージンは、上下各約3cm、左右各約2.5cm。1ページに本文34行、1行に全角文字で42字程度にして下さい。
 - 3) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、本文との間に受理日を入れるので、余白を少しあけて下さい。
 - 4) 図や表は本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 5) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
5. 研究会報告の作成要領については、物性研究ホームページをご覧ください。か、刊行会までお問い合わせ下さい。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学 湯川記念館内
物性研究刊行会

Tel. (075)722-3540, 753-7051

Fax. (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

編集部より

2004 年度「物性研究」会費納入について

2004 年度の「物性研究」の発行は下記の通りです。

Vol. 82 No.1 - 6 (2004 年 4 月号 ~ 2004 年 9 月号)

Vol. 83 No.1 - 6 (2004 年 10 月号 ~ 2005 年 3 月号)

個人会員は、郵便振替による前納制となっておりますので、2004 年度購読希望者は、本号にとじ込みの郵便振替用紙で、年額 9,600 円をお振込下さい。発送の準備がありますので、振込は 2004 年 3 月末までをお願いします。

中止は巻の切れめしかできませんので、2003 年度 (Vol.81 No.6 まで) で中止を希望の方は、至急、ご連絡下さい。本人から中止の連絡のない場合は、自動的に継続されますのでご注意ください。

2003 年度の会費が未納の方 (封筒に未納額を記載) は、早急にお振込くださいますようお願いします。

〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学 湯川記念館内
物 性 研 究 刊 行 会

Tel. (075) 722-3540, 753-7051

Fax. (075) 722-6339

郵便振替口座 01010-6-5312

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

編集後記

最近、私の所属する研究室周辺で、「自然科学の発展にとって最も大切なことは“新しい概念”を生み出すことであろうか？」という問題提起が話題になった。いきなり堅苦しい科学哲学論議みたいな話で恐縮であるが、少しつきあっていただければと思う。

例えば、過去十数年来、最も活発な研究分野の一つであった「酸化物高温超伝導」を例にとると、「従来の固体電子論の範疇では記述不可能、新しい枠組が必要」という極左派から、「オーソドックスな多体電子論のある程度の拡張で理解可能」という立場まで、幅広く意見が分かれているが、たとえもし仮に、後者の考え方が正しいという結論に到ったとしても、このテーマが（特に将来を嘱望される若く優秀な研究者にとって）研究する価値の無いものであったと、はたして言い切れるであろうか。あるいはまた、生命科学や脳科学などの分野において脳神経または生物全般で起こる現象が、物理学・化学の既知の枠組を越えたところで起こっていると考える研究者は、おそらく今日（いたとしても）少数派であろう。（もちろん、多数派が絶対に正しいという保証はないが。）それでも、なおこれらの分野は全く終るどころか、多様な生命現象、神経生理現象がいかなる物理化学的プロセスを通して実現しているかを解明することは、現在も進行中の最前線の研究テーマである。それらの現象の理解に“新しい概念”が必要か否かによって、その研究の重要性が左右されるものではないと思う。

科学哲学者ウィトゲンシュタインが戦場で従軍しながら記したとされる「論理哲学論」には次のような一節がある。「もしも私がその対象を知っているとすれば、さまざまな事態のうちにそれが出現するすべての可能性をも知っているのである」この意味での“知る”ということを経験現象に対する理解であるとするならば、科学的知識の発展は、“新概念”の獲得に集約されるほど単純ではない。予期せぬ現象に直面したならば、それはその現象を記述する基礎となる知識への理解不足のためであると考えた方がよい場合もあるであろう。特に多数の自由度が複雑に絡み合っている起こる物性物理の研究対象に対しては、このようなことが起こり易い。むしろ、単純な要素還元主義や第一原理からの演繹だけでは捉え切れない自然の多様性の記述にこそ物性科学の醍醐味があると思う。

結局のところ、広い意味での物性科学全般において、自然という精緻な「からくり箱」から繰り出される多彩な現象のその「からくり」を解きほぐす行為は、それが原理的にまたは概念的に新しいものを必要とするしないに関わらず、終焉することはないであろうし、その価値を否定することもできないであろう。

(S. F.)

[物性研究]

編集長

早川 尚男 (京大・理・物理)

編集委員

池田 浩章 (京大・理・物理)
北村 光 (京大・理・物理)
中尾 裕也 (京大・理・物理)
藤本 聡 (京大・理・物理)
加藤 将樹 (京大・理・化学)
佐々木 豊 (京大・低温センター)
常次 宏一 (京大・基研)
戸塚 圭介 (京大・基研)
村瀬 雅俊 (京大・基研)
森成 隆夫 (京大・基研)
大木谷 耕司 (京大・数研)

各地編集委員

飯間 信 (北大・電子研)
内田 就也 (東北大・理・物理)
藤本 仰一 (東大・教養・基礎科第一)
柳瀬 陽一 (東大・理・物理)
出口 哲生 (お茶の水大・理・物理)
永井 寛之 (信州大・理・物理)
岡本 祐幸 (分子科学研)
小西 哲郎 (名大・理・物理)
池田 研介 (立命館大・理工・物理)
関本 謙 (ルイバスツール大・物理)
菊池 誠 (阪大・理・物理)
水口 毅 (大阪府大・工・数理工学)
市岡 優典 (岡大・理・物理)
吉森 明 (九大・理・物理)

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

物 性 研 究 第 81 卷第 5 号 (平成 16 年 2 月号) 2004 年 2 月 20 日発行

発行人 早 川 尚 男

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和企業組合
昭和堂印刷所

〒606-8225 京都市百万遍交差点上ル東側
TEL (075) 721-4541 ~ 3

発行所 物性研究刊行会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

[物性研究]

編集長

早川 尚男 (京大・理・物理)

編集委員

池田 浩章 (京大・理・物理)
北村 光 (京大・理・物理)
中尾 裕也 (京大・理・物理)
藤本 聡 (京大・理・物理)
加藤 将樹 (京大・理・化学)
佐々木 豊 (京大・低温センター)
常次 宏一 (京大・基研)
戸塚 圭介 (京大・基研)
村瀬 雅俊 (京大・基研)
森成 隆夫 (京大・基研)
大木谷 耕司 (京大・数研)

各地編集委員

飯間 信 (北大・電子研)
内田 就也 (東北大・理・物理)
藤本 仰一 (東大・教養・基礎科第一)
柳瀬 陽一 (東大・理・物理)
出口 哲生 (お茶の水大・理・物理)
永井 寛之 (信州大・理・物理)
岡本 祐幸 (分子科学研)
小西 哲郎 (名大・理・物理)
池田 研介 (立命館大・理工・物理)
関本 謙 (ルイバスツール大・物理)
菊池 誠 (阪大・理・物理)
水口 毅 (大阪府大・工・数理工学)
市岡 優典 (岡大・理・物理)
吉森 明 (九大・理・物理)

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~busseied/>

物 性 研 究 第 81 卷第 5 号 (平成 16 年 2 月号) 2004 年 2 月 20 日発行

発行人 早 川 尚 男

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和企業組合
昭和堂印刷所

〒606-8225 京都市百万遍交差点上ル東側
TEL (075) 721-4541 ~ 3

発行所 物性研究刊行会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお振込み下さい。

年会費 9,600円

1st Volume (4月号～9月号)

2nd Volume (10月号～3月号)

振替用紙は毎年2月号にとじ込んであります。振替用紙が必要な場合は、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 **01010-6-5312**

2. 送本中止の場合：

送本の中止は年度の切れ目しかできません。次の年度より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は自動的に継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、すぐにご連絡下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく1年以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご注意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円**です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類（請求、見積、納品書）が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は年度の切れ目しかできません。次の年度より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は自動的に継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に下記までご連絡下さい。

物 性 研 究 刊 行 会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

電話 (075)722-3540, 753-7051

FAX (075)722-6339

E-mail busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

物性研究 81-5 (2月号) 目次

○講義ノート

「第48回 物性若手夏の学校 (2003年度)」 595

○編集部より

2004年度「物性研究」会費納入について 828

○編集後記 829

物性研究 81-5 (2月号) 目次

○講義ノート

「第48回 物性若手夏の学校 (2003年度)」 595

○編集部より

2004年度「物性研究」会費納入について 828

○編集後記 829